

読書会用テキスト（2011年4月～2021年3月 購入テキスト）

2011.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
1	わたしを離さないで	カズオ・イシグロ	早川書房<450p>
	優秀な介護人キャシーは「提供者」と呼ばれる人々の世話をしている。生まれ育った施設ヘルルシャムで共に過ごした親友たちも提供者だった。施設で過ごした、図画工作に力を入れた授業、毎週の健康診断、保護官と呼ばれる教師たちなどとの奇妙な日々を思い返す。ヘルルシャムの残酷な真実が明らかになってゆく。		
2	諜報の天才杉原千畝	白石仁章	新潮社<213p>
	「命のビザ」は、類稀な外交官のインテリジェンスの賜物だった！ 日本の「耳」として、戦火のヨーロッパを駆けずり回ったインテリジェンス・オフィサー杉原千畝の姿を、現存する史料を用いて明らかにする。（TRC-MARCより）		
3	もし高校野球の女子マネージャーがドラッカーの『マネジメント』を読んだら	岩崎夏海	ダイヤモンド社<272p>
	野球部のマネージャーのみなみは、偶然ドラッカーの経営書「マネジメント」に出会う。はじめは難しさにとまどうが、野球部を強くするのにドラッカーが役立つことに気づき…。ドラッカーの教えをもとに甲子園を目指す青春物語。（TRC-MARCより）		
4	人質の朗読会	小川洋子	中央公論新社<247p>
	紙をめくる音、咳払い、慎重な拍手で朗読会が始まる。祈りにも似たその行為に耳を澄ませるのは、人質たちと見張り役の犯人。そして…。『中央公論』掲載をまとめて書籍化。（TRC-MARCより）		
5	下町ロケット	池井戸潤	小学館<407p>
	佃航平は宇宙工学研究の道を諦め実家の町工場を継いでいたが、経営はまさに崖っぷち。だが世界最先端の技術で特許出願をしていた佃製作所に、ロケット開発という思わぬ展開が…。『週刊ポスト』連載を加筆・訂正して単行本化。（TRC-MARCより）【第145回直木賞受賞作】		
6	不可能	松浦寿輝	講談社<251p>
	「現在」が亡霊として揺らめいているだけの、時間のない世界。そこに舞い戻ったのは、咽喉元に二筋の癍痕を持つ男。やがて物語は、恍惚の極致へ向かい…。短編連作集。『群像』『新潮』掲載に加筆・訂正して単行本化。（TRC-MARCより）		
7	街場のメディア論	内田樹	光文社<213p>
	テレビ視聴率の低下、新聞部数の激減、出版の不調…。未曾有の危機の原因はどこにあるのか？ 「贈与と返礼」の人類学的地平からメディアの社会的存在意義を探り、危機の本質を見極める。神戸女学院大学の人気講義を書籍化。（TRC-MARCより）		

	書 名	著 者	発 行 所
8	紅梅	津村節子	文藝春秋<171p>
	癌に冒され、徐々に衰弱していった「夫」は、自らの死を強く意識するようになる。1年半にわたる作家・吉村昭の闘病と死を、作家でもある妻が冷静な筆で描く。『文学界』掲載を単行本化。(TRC-MARCより)【第59回菊池寛賞受賞作】		
9	パンとペン 社会主義者・堺利彦と「売文社」の闘い	黒岩比佐子	講談社<446p>
	夏目漱石から松本清張まで多くの作家との意外な接点を持ち、日本初の編集プロダクションかつ翻訳会社を率いた堺利彦。「弾圧の時代」をユーモアと筆の力で生き抜いた社会主義運動家に、文学から光をあてる。(TRC-MARCより)		
10	蝸ノ記	葉室麟	祥伝社<327p>
	羽根藩の壇野庄三郎は幽閉中の元郡奉行・戸田秋谷の元へ遣わされる。秋谷は不義密通の罪で家譜編纂と10年後の切腹を命じられていた。当時の事件の真相探求を命じられた庄三郎は…。『小説NON』連載「秋蝸」を加筆・訂正。(TRC-MARCより)【第146回直木賞受賞作】		

2012.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
11	語りきれないこと 危機と痛みの哲学	鷲田清一	角川学芸出版<186p>
	心を引き裂かれる経験、体の奥で疼いたままの傷。どうすれば苦難から身を立てなおすことができるだろうか？ 傷ついた人々の声を「聴くこと」を課題として臨床哲学を提唱した著者が、「語ること」の意味を真摯に説く。(TRC-MARCより)		
12	飼い喰い 三匹の豚とわたし	内澤旬子	岩波書店<306p>
	世界各地の屠畜現場取材してきたイラストルポライターが、一年間をかけ、三頭の肉豚を飼育、屠畜場に出荷し、肉にして食べるまでを綴る。「軒先豚飼い」を通じて現代の大規模養豚、畜産の本質に迫る体験ルポ。(TRC-MARCより)		
13	ブータン、これでいいのだ	御手洗瑞子	新潮社<223p>
	ブータンってみんな、幸せそう。現地で公務員として働いた著者が語る、「幸福」の国の秘密。オフィスでの仕事から、ブータン人気質、ブータンの男女関係、産業政策、死生観まで紹介する。(TRC-MARCより)		
14	きみはいい子	中脇初枝	ポプラ社<318p>
	夕方5時までは家に帰らせてもらえないこども。娘に手を上げてしまう母親。怖かったのも、触れたかったのも、おかあさんの手だった。追い詰められつつある家族の物語を描く連作短編集。(TRC-MARCより)		
15	冥土めぐり	鹿島田真希	河出書房新社<156p>
	裕福だった過去に執着し、借金を重ねる母と弟。一族の災厄から逃れたはずの奈津子だが、突然、夫が不治の病にかかる。だがそれは、奇跡のような幸運だった…。表題作ほか、全2編を収録。『文芸』掲載を単行本化。(TRC-MARCより)【第147回芥川賞受賞作】		

	書 名	著 者	発 行 所
	あめい 蛙鳴	莫言	中央公論新社<476p>
16	墮せば命と希望が消える。産めば世界が必ず飢える…。神の手と敬われた産婦人科医の伯母。だが、その伯母が「一人っ子政策」推進の責任者に任ぜられるや、悪魔の手と怨嗟的に…。現代中国根源の禁忌を描く。(TRC-MARCより)		
	母の遺産 新聞小説	水村美苗	中央公論新社<524p>
17	若い女と同棲している夫がいて、その夫とのかを考えるとねばならないのに、母は死なない…。親の介護、姉妹の確執。離婚を迷う女は一人旅へ。著者自身の体験を交えて描く長篇小説。『読売新聞』連載を単行本化。(TRC-MARCより)【第39回大佛次郎賞受賞作】		
	空白を満たしなさい	平野啓一郎	講談社<493p>
18	3年前に自殺したサラリーマンの土屋徹生。「復生者」としてよみがえった彼は、自分の死の理由を追い求める中で、人が生きる意味、死んでいく意味を知る…。新たな死生観を描く長編小説。『モーニング』連載を単行本化。(TRC-MARCより)		
	田中角栄 戦後日本の悲しき自画像	早野透	中央公論新社<408p>
19	「コンピュータ付きブルドーザー」と呼ばれた頭脳と行動力で、高等小学校卒から54歳で首相の座に就いた田中角栄。首相時代からその死までを至近距離で見てきた政治記者が、角栄の生涯を日本の戦後と重ね合わせて語る。(TRC-MARCより)		
	永遠の0(ゼロ)	百田尚樹	講談社<589p>
20	「生きて帰る」という妻との約束にこだわり続け、生への執着を臆面もなく口にしていたゼロ戦パイロット。男は、なぜ特攻を志願したのか?終戦から60年目の夏、死んだ祖父の生涯を調べるうちに浮かんできた謎。はるかなる時を超えて明らかになる真実とは。		
	abさんご	黒田夏子	文藝春秋<81,47p>
21	2つの書庫と巻き貝状の小べやのある「昭和」の家庭で育ったひとり児の運命…。全文横書き、かつ「固有名詞」を一切使わないという日本語の限界に挑んだ超実験小説。「毬」ほか2篇は裏表紙側から縦書きで収録。(TRC-MARCより)【第148回芥川賞受賞作】		
	死の淵を見た男 吉田昌郎と福島第一原発の五〇〇日	門田隆将	PHP研究所<380p>
22	福島第一原発事故の、考えられうる最悪の事態の中で、現場はどう動き、どう闘ったのか。福島第一原発所長として最前線で指揮を執った吉田昌郎のもと、使命感と郷土愛に貫かれて壮絶に闘った人々の物語。(TRC-MARCより)		
	光圀伝	冲方丁／著	角川書店<751p>
23	なぜ、あの男を自らの手で殺めることになったのか。老齡の光圀は、水戸・西山荘の書齋で、誰にも語ることのなかったその経緯を書き綴ることを決意する…。まったく新しい“水戸黄門”像を描く。『小説野性時代』連載を書籍化。(TRC-MARCより)【第3回山田風太郎賞受賞作】		

2013.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
24	色彩を持たない多崎つくると、彼の巡礼の年	村上春樹／著	文藝春秋<370p>
	死ぬことだけを考えて生きている大学生、多崎つくると。そんな彼にとって、駅をつくることは心を世界につなぎとめておくための営みだった。あるポイントまでは…。書き下ろし長篇小説。(TRC-MARCより)		
25	海賊とよばれた男 上・下	百田尚樹	講談社<380p,362p>
	敗戦の夏、国岡鐵造は借金以外なにもかも失っていた。20世紀の産業を興し、戦争の火種となった巨大エネルギー・石油。その石油を武器に変えて世界と闘った男とはいったい何者か。実在の人物をモデルにした歴史経済小説。(TRC-MARCより)【2013年本屋大賞受賞作】		
26	爪と目	藤野可織	新潮社<125p>
	娘と継母。父。喪われた母。家族、には少し足りない集団に横たわる嫌悪と快感を律動的な文体で描く純文学的ホラー。表題作ほか全3編を収録。(TRC-MARCより)【第149回芥川賞受賞作】		
27	<株>貧困大国アメリカ	堤未果	岩波書店<278p>
	「1% vs 99%」の構図が世界にひろがるなか、本家本元のアメリカでは驚愕の事態が進行中。あらゆるものが巨大企業にのまれ、株式会社化が加速する世界で、国民が主権を取り戻す方法を事例を通して考える。(TRC-MARCより)		
28	後水尾天皇	熊倉功夫	中央公論新社<320p>
	江戸幕府の草創期に皇位を継承し、徳川和子を妃に迎えた後水尾天皇。<葵>の権力から<菊>の威厳を巧みに守りつつ、自ら宮廷サロンを主宰し、寛永文化を開花させた帝の、波乱の生涯を描く出色の評伝。(TRC-MARCより)		
29	和宮様御留	有吉佐和子	講談社<407p>
	瓦解目前の徳川将軍家に降嫁を命ぜられた皇妹・和宮。その身替りとなった少女フキは何も知らないまま江戸へと向かう。人生を翻弄された女たちの苦悩にみちた生涯、無力であった者たちへの思いを描く。		
30	巨鯨の海	伊東潤	光文社<336p>
	仲間との信頼関係が崩れると即、死が待ち受ける危険な漁法、組織捕鯨。それゆえ、村には厳しい掟が存在した。江戸から明治へ、漁村で繰り広げられる劇的な人生を描いた連作短編集。『小説宝石』掲載に加筆し書籍化。(TRC-MARCより)【第4回山田風太郎賞受賞作】		
31	無私日本人	磯田道史	文藝春秋<333p>
	武士にお金を貸し、利子で郷里を潤すという事業を成し遂げた穀田屋十三郎をはじめ、儒学者・中根東里、歌人・大田垣蓮月という江戸時代を生きた3人の評伝を通し、日本人の「無私精神」を描く。(TRC-MARCより)		

2014.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
	約束の海	山崎豊子	新潮社<378p>
32	海上自衛隊の潜水艦と釣り船が衝突。若き士官を襲う過酷な試練。その父は昭和16年、真珠湾に出撃して一。時代に翻弄され、時代に抗う、父子100年の物語が、いま始まる。『週刊新潮』連載に加筆・修正し単行本化。(TRC-MARCより)		
	先生と私 1960-1975	佐藤優	幻冬舎<328p>
33	両親、伯父、副塾長、牧師…。1960年の誕生から高校入学までの15年間、私にはいつも「師」と呼べる人がいた一。知の“巨星”の思想と行動の原点を描いた自伝ノンフィクション。『papyrus』連載を改題し単行本化。(TRC-MARCより)		
	先生のお庭番	朝井まかて	徳間書店<312p>
34	「草花を母国へ運びたい」阿蘭陀から来た医師しぼると先生の意味に、熊吉は知恵をしぼるが、思わぬ事件に巻き込まれ…。日本の草花に魅せられたシーボルトと若き植木職人の、国を越えて生まれた信頼と情熱の物語。(TRC-MARCより)		
	くしひきちもり 櫛挽道守	木内昇	集英社<367p>
35	幕末、木曾山中。父の背を追い、少女は職人を目指す。家族とはなにか。女の幸せはどこにあるのか…。一心に歩いた道の先に、深く静かな感動が広がる長編時代小説。『集英社WEB文芸レンザブロー』連載を単行本化。(TRC-MARCより)		
	透明な迷宮	平野啓一郎	新潮社<209p>
36	性に憑かれたハンガリー人に拉致された日本人カップル。悲劇を共有し愛し合うようになったふたりが迷い込んだ深い迷宮とは？美しく官能的な悲劇を描く表題作をはじめ、全6篇を収録。『新潮』『文学界』等の掲載を単行本化。(TRC-MARCより)		
	私の聖書物語 イースター黙想	宮田光雄	新教出版社<223p>
37	ナチによって引き裂かれた婚約者ボンヘッファーとマリーア、バルトから批判されたバッハのマタイ受難曲…。さらにパウロの復活観の真髓を辿りながら、キリスト教信仰の核心である「復活」の理解を深める黙想集。(TRC-MARCより)		
	屋根屋	村田喜代子	講談社<307p>
38	雨漏りのする屋根の修理にやってきた屋根屋。自在に夢を見られると語る彼の誘いに乗って、「私」は夢の中の旅へ一緒に出かける。屋根職人と平凡な主婦の奇想天外な空の旅。(TRC-MARCより)		
	冬の旅	辻原登	集英社<357p>
39	妻の失踪を皮切りに、緒方隆雄の人生は悪いほうへ悪いほうへと雪崩れる。失職、病、路上生活、強盗致死…。刑期を終えて緒方は滋賀刑務所を出所し、たった一人、この世の果てへと歩き出す…。現代を照射する、哀しみの黙示録。(TRC-MARCより)【第24回伊藤整文学賞受賞作】		

	天人 深代惇郎と新聞の時代	後藤正治	講談社<374p>
40	名文家しか書くことを許されない『朝日新聞』の名物コラム「天声人語」。新聞がジャーナリズムの中心にあった昭和に「天人」執筆者として輝きを放ち、惜しまれつつ早世したコラムニスト・深代惇郎を、多くの証言から描く。(TRC-MARCより)		

2015.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
	水声	川上弘美	文芸春秋<222p>
41	思い出すと、どこかで鳥が鳴いているような心地がする。あの、夏の夜の鳥が。死んだママの夢、時計の音、忘れえぬ人びと。人生の最も謎めいた部分に迫る長編小説。『文学界』連載を単行本化。(TRC-MARCより)		
	九年前の祈り	小野正嗣	講談社<221p>
42	35歳になるシングルマザーのさなえは、幼い息子をつれて、海辺の小さな集落に戻ってきた。息子を持て余しながら、さなえが懐かしく思い出したのは、9年前の「みっちゃん姉」の言葉だった…。表題作など全4作を収録する。(TRC-MARCより)【第152回芥川賞受賞作】		
	落日燃ゆ	城山 三郎	新潮社<329p>
43	戦争防止に努めながら、文官としてただ一人A級戦犯に挙げられ、裁判を通じて一切の弁解をせず従容として死を受け入れた不世の政治家、広田弘毅の生涯を、激動の昭和史と重ねながら克明にたどる。74年刊の新装版。(TRC-MARCより)【第9回 吉川英治文学賞受賞作】		
	火花	又吉 直樹	文芸春秋<148p>
44	奇想の天才である一方で人間味溢れる神谷、彼を師と慕う後輩徳永。芸人の2人が運命のように出会ってから劇は始まった。笑いは何か、人間が生きるとは何なのか。『文学界』掲載を書籍化。(TRC-MARCより)【第153回芥川賞受賞作】		
	岬	中上 健次	文芸春秋<267p>
45	複雑な血縁のしがらみに苦悩する主人公・秋幸。血の宿命のなかに閉じ込められた青年の、癒せぬ渴望と愛憎を描いた芥川賞受賞作。		
	藪医ふらここ堂	朝井 まかて	講談社<320p>
46	神田三河町で開業している小児医、天野三哲は「面倒臭え」が口癖の藪医者。ところが、ひょうなことから患者が押し寄せてきて…。直木賞作家が人情と笑いたっぷりに描く、江戸の名物小児医の物語。『小説現代』掲載を単行本化。(TRC-MARCより)		
	スクラップ・アンド・ビルド	羽田 圭介	文芸春秋<121p>
47	「早う死にたか」毎日のようにぼやく祖父の願いをかなえてあげようと、ともに暮らす孫の健斗は、ある計画を思いつく。閉塞感の中に可笑しみ漂う、新しい家族小説。『文学界』掲載を単行本化。(TRC-MARCより)【第153回芥川賞受賞作】		
	あこがれ	川上 未映子	新潮社<248p>
48	麦彦とヘガティ、同じ歳の2人はイノセンスを抱えて全力で走り抜ける。この不条理に満ちた世界を。さまざまなくあこがれ>の対象を持ちながら必死に生きる少年少女のぎりぎりのユートピアを描く。『新潮』掲載を単行本化。(TRC-MARCより)【第1回渡辺淳一文学賞受賞作】		

	消滅 VANISHING POINT	恩田 陸	中央公論新社<523p>
49	超巨大台風が接近し封鎖された空港で、別室に連行された11人(+1匹)。この中に、テロを計画する首謀者がいるという。閉鎖空間で緊迫の「テロリスト探し」が始まる!『読売新聞』連載を単行本化。(TRC-MARCより)		
	生きて帰ってきた男 ある日本兵の戦争と戦後	小熊 英二	岩波書店<389p>
50	とある一人のシベリア抑留者がたどった軌跡から、戦前・戦中・戦後の日本の生活模様がよみがえる。戦争とは、平和とは、いったい何だったのか。著者が自らの父・謙二の人生を通して、「生きられた20世紀の歴史」を描き出す。(TRC-MARCより)【第14回小林秀雄賞受賞】		

2016.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
	家族という病	下重 暁子	幻冬舎<177p>
51	日本人の多くが「一家団欒」という言葉にあこがれ、そうあらねばならないという呪縛にとらわれている。なぜ「家族」は美化されるのか。家族の実態をえぐりつつ、「家族とは何か」を提起する。(TRC-MARCより)		
	死んでいない者	滝口 悠生	文藝春秋<144p>
52	秋のある日、大往生を遂げた男の通夜に親類たちが集った。一人ひとりが死に思いをはせ、互いを思い、家族の記憶が広がって…。生の断片が重なり合い、永遠の時間が立ち上がる奇跡の一夜を描く。『文藝春秋』掲載を単行本化。(TRC-MARCより)【第154回芥川賞受賞作】		
	日本人はどこから来たのか?	海部 陽介	文藝春秋<213p>
53	世界各地の遺跡の年代調査比較、DNA分析、石器の比較研究…。国立科学博物館気鋭の人類学者の重層的な調査により、これまでほとんど語られたことのない、祖先たちのアフリカから日本列島へ至る大移動の歴史を描き出す。(TRC-MARCより)		
	Aではない君と	薬丸 岳	講談社<349p>
54	吉永の息子・翼が死体遺棄容疑で逮捕された。しかし翼は弁護士に何も話さない。吉永は少年法10条に保護者自らが弁護士に代わって話を聞ける「付添人制度」があることを知り…。『週刊現代』連載に加筆修正して単行本化。(TRC-MARCより)【第37回吉川文学新人賞受賞作】		
	罪の声	塩田 武士	講談社<409p>
55	父の遺品の中からカセットテープを見つけた俊也。幼い自分の声の音声は31年前の未解決事件で恐喝に使われた録音テープと全く同じだった…。「グリコ・森永事件」をモデルにした長編小説。『小説現代』電子版連載を単行本化。(TRC-MARCより)【第7回山田風太郎賞】		
	こころ (改版)	夏目漱石	岩波書店<300p>
56	大学生の私は夏休みに「先生」と出会い、その後も交流を続けていく。「先生」と慕うが、なかなか心を開いてくれず、謎めいたことを言い惑わせる。先生の過去が気になりながら帰省しているところへ「先生」から長い手紙が届く。		

2017.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
57	十二人の死にたい子どもたち	沖方 丁	文藝春秋〈404p〉
	かつて病院だった建物に集う、少年少女たち。彼らの目的は安楽死をすること。だがそこにはすでに、少年の死体があった。著者初の現代長編ミステリー。『別冊文藝春秋』掲載を書籍化。(TRC-MARCより)		
58	コーヒーが冷めないうちに	川口 俊和	サンマーク出版〈348p〉
	結婚を考えていた彼氏と別れた女、記憶が消えていく男と看護師、家出した姉とよく食べる妹…。過去に戻れる喫茶店「フニクリフニクラ」を訪れた4人の女性たちが紡ぐ、家族と、愛と、後悔の物語。(TRC-MARCより)		
59	出会いなおし	森 絵都	文藝春秋〈230p〉
	出会い、別れ、再会し、また別れ。人は会うたびに知らない顔を見せ、立体的になる。表題作をはじめ、「ママ」「むすびめ」など、人生の特別な瞬間を凝縮した珠玉の6編を収録。『オール讀物』掲載を書籍化。(TRC-MARCより)		
60	将棋の子	大崎 善生	講談社〈352p〉
	将棋の名人を夢見る天才少年たちが熾烈な競争を繰り広げる奨励会。青春のすべてをかけた夢が叶わず退会していく者も多い。せつなくも美しく、勇気が湧いてくる物語。		
61	坊っちゃん	夏目 漱石	岩波書店〈173p〉
	無鉄砲で喧嘩早い「坊っちゃん」は、数学教師となり、東京から松山の中学校に赴任する。曲がったことが嫌いな坊ちゃんは、教頭・赤シャツらを懲らしめる策を練る。		

2018.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
62	おらおらでひとりいぐも	若竹 千佐子	河出書房新社 〈164p〉
	「この先一人でどやって暮らす。こまったあどうすんべえ」捨てた故郷、疎遠な息子と娘、亡き夫への愛。震えるような悲しみの果てに、74歳の桃子さんが辿り着いた、圧倒的自由と賑やかな孤独とは。『文藝』掲載を単行本化。(TRC-MARCより)【第158回芥川賞受賞作】		
63	飛び込み台の女王	マルティナ・ヴィルトナー	岩波書店〈241p〉
	カルラはナージャのあこがれの選手だった。ある日を境に飛び込めなくなるまでは…。周囲の期待にさらされ、親友は競争相手。思春期のさなかにあって激しい変貌をとげる、2人の少女の変遷と成長を描く。(TRC-MARCより)		
64	散り椿	葉室 麟	KADOKAWA 〈422p〉
	かつて一刀流道場の四天王のひとりと謳われた瓜生新兵衛が、山間の小藩に帰ってきた。だが、18年ぶりの新兵衛の帰郷は、藩内抗争を呼び起こし…。秘めた想いを胸に、誠実に生きようと葛藤する人々を描いた時代長編。(TRC-MARCより)		

	ある男	平野 啓一郎	文藝春秋 <354p>
65	里枝には、2歳の次男を脳腫瘍で失って、夫と別れた過去があった。長男を引き取り、14年ぶりに故郷に戻ったあと、「大祐」と再婚するが、「大祐」は事故で命を落とす。さらに、衝撃の事実が…。『文藝春秋』掲載を単行本化。(TRC-MARCより)		
	宝島 HERO's ISLAND	真藤 順丈	講談社 <541p>
66	英雄を失った島に、新たな魂が立ち上がる。固い絆で結ばれた幼馴染み、グスク、レイ、ヤマコ。彼らは警官になり、教師になり、テロリストになり、同じ夢に向かった。青春と革命の一大叙事詩。『小説現代』掲載を単行本化。(TRC-MARCより)【第160回直木賞受賞作】		
	鐘は歌う	アンナ・スメイル	東京創元社 <410p>
67	塔からレイヴンが消え、橋という橋は落ち、瓦礫の街と化したロンドン。言葉も記憶も失われ、鐘の音が世界を支配する。ロンドンをさまよう孤児サイモンは、不思議な眼をした少年に出会い…。(TRC-MARCより)【世界幻想文学大賞受賞作】		
	頭に来てアホとは戦うな!	田村 耕太郎	朝日新聞出版 <221p>
68	苦手なヤツほど、徹底的に利用せよ! 「相手の欲望を見抜き」「腰を低くして、助けを求め」「味方にする」ー。目標がみるみる叶う「人の動かし方」を伝授する。(TRC-MARCより)		
	何者	朝井 リョウ	新潮社 <346p>
69	就活の情報交換をきっかけに集まった拓人たち。自分を生き抜くためにほんとうに必要なことは何なのか。この世界を組み変える力はどこから生まれ来るのか。就活大学生の自意識をあぶり出す、リアルで切実な長編小説。(TRC-MARCより)【第148回直木賞受賞作】		

2019.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
	みかづき	森 絵都	集英社 <617p>
70	昭和36年。小学校用務員の吾郎は、勉強を教えていた児童の母親・千明に誘われ、学習塾を立ち上げる。千明と結婚し、家族になった吾郎。塾も順調に成長するが、予期せぬ波瀾が2人を襲い…。NHKドラマの原作。(TRC-MARCより)		
	平成くん、さようなら	古市 憲寿	文藝春秋 <187p>
71	平成を象徴する人物としてメディアに取り上げられ、現代的な生活を送る「平成くん」。だが、平成の終わりと共に安楽死をしたいと恋人に告げ…。平成という時代と、いまを生きることの意味を問い直す。『文藝春秋』掲載を書籍化。(TRC-MARCより)		
	残り者	朝井 まかて	双葉社<339p>
72	徳川家に江戸城の明け渡しを命じられる。官軍の襲来を恐れ、女中たちが我先にと脱出を試みるなか、大奥にとどまった「残り者」がいた。彼女たち5人が起こした思いがけない行動とは…。激動の時代を生きぬいた女たちの物語。(TRC-MARCより)		

	女たちのアンダーグラウンド	山崎 洋子	亜紀書房 <323p>
73	戦後、日本人女性と米兵の間に生まれた「子どもたち」、経済成長の陰で地を這うように生きた「女たち」は、その後どんな運命をたどったのか。数多くの証言をもとに、華やかな横浜の裏の歴史を描き出すノンフィクション。(TRC-MARCより)		
	帰郷	浅田 次郎	集英社 <262p>
74	戦争に巻き込まれた市井の人々により語られる戦中、そして戦後。時代が移り変わっても、風化させずに語り継ぐべき反戦のこころ。戦争文学を次の世代へつなぐ記念碑的小説集。(TRC-MARCより)【第43回大佛次郎賞受賞作】		
	むらさきのスカートの女	今村 夏子	朝日新聞出版 <158p>
75	近所に住む「むらさきのスカートの女」が気になる<わたし>。自分と同じ職場で働くよう彼女を誘導し、その生活を観察し続け…。狂気と紙一重の滑稽さ。<わたし>が望むものとは？(TRC-MARCより)【第161回芥川賞受賞作】		
	白いしるし	西 加奈子	新潮社 <198p>
76	好きすぎて、怖いくらいの恋に落ちた夏目。でも、彼は私だけのものにはならない。触れるたび、募る想いに痛みは増して、夏目は笑えなくなった。恋の終わりを知ることは、人を強くしてくれるのだろうか？(TRC-MARCより)		
	82年生まれ、キム・ジョン	チョ ナムジュ	筑摩書房 <189p>
77	ある日突然、自分の母親や友人の人格が憑依したかのようなキム・ジョン。誕生、学生時代、受験、就職、結婚、育児…。彼女の人生を克明に振り返る中で、女性の人生に立ちほかかる困難と差別を描く。(TRC-MARCより)		
	あひる	今村 夏子	書肆侃侃房 <140p>
78	あひるを飼うことになった家族と学校帰りに集まってくる子供たち。幸せな日常の危うさを描いた表題作と、揺れ動く子供たちの心の在りようを鋭く描く「おばあちゃんの家」「森の兄妹」の全3編を収録。(TRC-MARCより)【第5回河合隼雄物語賞受賞作】		

2020.4～ 購入テキスト

	書 名	著 者	発 行 所
	自由は死せず	門井 慶喜	双葉社 <557p>
79	時勢を読み倒幕の筋書きを描いた男は、戊辰戦争の果てに、この国の礎となる自由民権運動に一身を捧げた。幕末維新を駆け抜けた板垣退助の波乱万丈の生涯を描く長編歴史小説。(TRC-MARCより)		
	少年と犬	馳 星周	文藝春秋 <308p>
80	家族のために犯罪に手を染めた男が拾った犬。守り神になったその犬はある意志を秘めていた。人生の無常と犬の神秘性を描いた全6編を収録。(TRC-MARCより)【第163回 直木賞受賞作】		

81	三つ編み	レティシア・コロンバニ	早川書房〈255p〉
	インド、イタリア、カナダ。3大陸の3人の女性。かけ離れた境遇に生きる彼女たちに共通しているのは、女性に押しつけられる困難と差別のために立ち向かっていること…。逆境を生きる女性の連帯を描く物語。(TRC-MARCより)		
82	ザリガニの鳴くところ	ディーリア・オーエンズ	早川書房〈511p〉
	家族に見捨てられながらも、広大な湿地でたったひとり生きる少女に、ある殺人の容疑がかかり…。みずみずしい自然に抱かれて生きる少女の成長と不審死事件が絡み合い、思いもよらぬ結末へと物語が動き出す。(TRC-MARCより)【2021年本屋大賞翻訳小説部門第1位受賞作】		
83	心淋し川	西條 奈加	集英社〈242p〉
	江戸の片隅、小さなどぶ川沿いに立ち並ぶ古い長屋。住民たちは人生という川のどん詰まりでもがいていた。懸命に生を紡ぐ人々の切なる願いが胸にしみる連作時代小説。(TRC-MARCより)【第164回直木賞受賞作】		